

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市大倉ふるさとセンター
2 指定管理者	特定非営利活動法人 グリーンライフ東北
3 指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 ○古民家見学者 H30年度 11,543人 R1年度 10,867人 R2年度 8,964人（前年度比 82.5%）
	《事業》 ○指定管理事業 33事業 延べ3,130人参加 ・自然を活用した野外活動体験及び研修に関すること ・生活文化及び伝統技術の体験及び展示に関すること ・センターPRのための交流イベント ○自主及び他施設との連携事業 15事業 延べ273人参加
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 24,249千円 (23,319千円) ・ その他市が負担した費用 807千円 (1,126千円) 《収入》 ・ 使用料収入 489千円 (566千円) ・ その他収入 157千円 (220千円) ()は前年度決算額
6 利用者の声	《アンケートの実施状況と結果》 ・ 来館者アンケート（R2.4～R3.3に実施） 古民家における伝統行事の体験が好評だった。 ・ 事業参加者アンケート（R2.4～R3.3に実施） 親子キャンプやカヌー体験、古民家コンサート等の事業について、企画内容の評価が高い。また、職員の対応については、約9割の利用者が「良かった」と回答している。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	職員全員が施設の設置目的を理解し、基本方針に基づいた管理運営がなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	施設の管理運営は仕様書に定めたとおり行われており、職員の配置も適切である。指定管理料の執行状況については、事業毎に予算書を作成し、適切に処理されていることが確認できた。個人情報保護や情報セキュリティ対策については、日常のミーティングにおいて職員間で確認をしている。事故・災害への対応については、定期的に研修や訓練を実施するとともに職員の役割分担が明確にされている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	施設の備品は備品管理簿に基づいて適切に保管されている。建物や設備は職員が日常的に巡回し、来館者が快適に利用できる状態に保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員の接客マナーや受付案内は、職員間で共通の認識を持っている中で親切丁寧な案内がなされている。利用者への情報提供は市政日より、ホームページ、Twitterを通じて積極的に行われている。また施設に対する苦情は非常に少なく、良好なサービス水準が保たれている。	28/28
V 施設固有の基準	施設の貸出や使用料の徴収について、適切な処理がなされている。また、市民のニーズを捉えた事業を企画・実施するなど、新規の利用者を増やそうとする姿勢が見受けられる。	14/14

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人グリーンライフ東北）による自己評価》
<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のため5月末まで臨時休館し、6月から通常の開館を開始した。キャンプサイトについては、近年のキャンプブームや三密を回避してレジャーを楽しむことから利用申込の問い合わせが相次いだ。そこで、感染症予防の観点から貸出区画数を制限しながら利用者に手指消毒への協力を求めたり、室内の換気をこまめに行うなど対策を講じた。また、イベントの開催に当たっても、開催時間や回数などを見直し、1日掛かりのイベントを午前・午後の二部に分けて開催するなどの対策を行いながら、指定事業・自主事業を含め29の事業を実施した。</p> <p>古民家を活用した事業においては、感染症対策のため、ひな人形の展示や七草、節分の豆まきなどの季節行事を、規模を縮小したり一部内容を変更（「七草」では例年七草粥を来場者に振る舞っているが、令和2年度は食材を配布し各家庭で味わってもらうように変更）しながらではあったが開催した。</p> <p>地域間交流事業としては、作並振興協会・宮城西市民センター・泉岳自然ふれあい館・大倉四季探検実行委員会と事業協力を行い、雪遊びや鯉のぼり展示などを共催した。今後も地域の団体などと連携を深め、地域間交流を図っていきたい。</p> <p>大倉地区の人々との交流イベントとして開催している「倉人祭」は、令和元年度から2年連続で中止となった。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら内容を再検討し、各年代の方々に楽しんでいただけるよう地域の特色を生かしたイベントを企画していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、令和2年4月1日から5月31日まで及び令和3年3月26日から31日までを臨時休館とした。また、アクセス道路の工事による交通規制が続いていることもあり、古民家見学者数は減少したが、キャンプ場の利用に関しては、近年のキャンプブームを受けて臨時休館以外の期間は順調に推移しており、特に冬季のデイキャンプの利用は伸びている。</p> <p>指定事業の実施については、感染症拡大防止の観点から開催の中止や延期、開催規模の見直しなどを行っているが、仕様書や協定書に定める水準を確保している。</p> <p>施設・設備の維持管理については、日頃から来館者が快適に利用できるよう環境の整備に努めており、適切な管理が行われており評価できる。</p> <p>職員の対応については、キャンプの利用者が「職員から丁寧な説明やアドバイスが受けられた」とSNSなどを通じて伝えていることが利用者の増加につながっているものと考えられ、また、利用者アンケートでは約9割の利用者が「良かった」と回答していることから、引き続き利用者への親切丁寧な対応に期待したい。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、前年度までは昼食時間をまたいで開催していた事業を昼前に終了するよう進行スケジュールを調整したり、1日の参加者数を制限する一方で開催回数を増やすなど、感染防止と事業実施を両立させるための工夫を続けている。</p>

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課